

**【第80号 付録】**（「日本ナチュラル・ハイジーン普及協会」のホームページにほぼ毎月掲載されている松田先生の「ヒューストンからのメッセージ」のうちから、2018年9月、10月、11月掲載の記事を再編集したものです）

## ～Hello from Mamiko Matsuda, Ph.D. in Houston / 2018年9月～

9月14日から17日まで、カリフォルニア州サンディエゴで、「International Plant-Based Nutrition Health Care Conference」（国際プラントベース栄養学ヘルスケア・カンファレンス）が開催されました。

このカンファレンスは、「Plantician Project」（プラントリシャン・プロジェクト（※））という組織が主催するもので、2013年の開催以来、今年で6回目を迎えました。（※）医師や健康管理組織の専門家によって創設。



↑「国際プラントベース栄養学ヘルスケア・カンファレンス」初日のオープニング・ディナー。

「Plantician」というのは、「Plant（植物）」と「Physician（医師）」あるいは「Clinician（臨床医）」を合わせた造語で、「プラントベースの食べ物の効用に関する知識を備えている医師」を意味します。

「プラントリシャン・プロジェクト」の目的は、プラントベースの食べ物の栄養が与えてくれる「偽りのない知識」を、医療従事者のみなさんに身に付けていただくことです。それによって、「病気のケア」という現在の医療システムを、真の意味での「ヘルスケア（健康管理）」に変えていくことを提唱しています。

「プラントベースでホールフードの食事」は一般的な治療法と比べ、費用効率が高く、安全、かつ強力な治療法です。この食事はさまざまな慢性病の予防や進行停止ばかりか、回復さえも可能なことが証明されています。

この食事が正しいことは膨大な科学的根拠によって裏付けられているにもかかわらず、ほとんどの医療従事者はそのことを知りません。そもそも「カイザー・パーマナент」（※）のような全米最大の管理医療組織が、傘下の医師らに対し「プラントベースの食事」を患者にすすめるようアドバイスしているにもかかわらず、多くの医療従事者がそうした知識を持ち合わせていないというのが、このプロジェクト発足以前の状況でした。

（※）カリフォルニア州オークランドに本部を置く、全米最大の医療組織。38か所のメディカルセンターと620か所のクリニックを有する。従業員およそ18万人、医師およそ1万8000人、看護師およそ4万9000人で構成。

そのため、医療は薬や手術による症状の緩和や痛みの除去に終始しており、ほとんどの患者も、それ以上の治療法はないと思っています。その結果、病人も医療費も増加の一途をたどっていて、慢性の病気がもたらす経済への負担は計り知れず、その膨大な額は軽視することができないほどです。もし医療従事者のみなさんがプラントベースの栄養学を理解し、多くの人に伝えたならば、こうした現状を一変させることも可能なのです。

こうした状況下で、「プラントリシャン・プロジェクト」は、医療従事者を対象に2013年から毎年、「国際プラントベース栄養学ヘルスケア・カンファレンス」を開催することになったのです。



第1回（2013年）の参加者は世界6か国から220名でしたが、年々増加し、今年（2018年）は20数か国からおよそ1000人も医療従事者が参集、会場は「真の栄養学を熟知する医師」をめざす人たちの熱気であふれていました。

カンファレンス初日、「プラントリシャン・プロジェクト」の共同創設者で医療主任を務めるスコット・ストール医学博士の基調講演が行なわれ、「プラントベースでホールフードの食事」について学んだ医師らが、病院に「プラントベース栄養学に基づくヘルスケア・システム」を導入し、すばらしい成果をあげている例がいくつか紹介されていました。

←基調講演中のスコット・ストール博士。